

選挙啓発広報

おうめしるばら

第2号 平成19年2月

発行 青梅市選挙管理委員会
青梅市明るい選挙推進協議会

青梅市の有権者数
男女計 112,327人
56,521人
55,806人
(平成18年12月2日現在)

統一地方選挙を控えて

青梅市選挙管理委員会

委員長 石川三男

明るい選挙推進委員の皆様方には、平素、明るい選挙推進と投票啓発活動等に特段のご尽力をいただいておりますことをこの紙上をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

さて平成19年は、青梅市では4月の統一地方選挙（東京都知事選挙・青梅市議会議員選挙）、7月の参議院議員選挙、11月の青梅市長選挙と春から夏、秋に四つの選挙が予定されております。

平成18年12月1日に平成19年春の統一地方選挙の日程を定める地方議員選挙期日特例法案が参議院本会議で可決成立し、12月8日に公布されました。これにより昭和22年の第1回から数えて第16回目に当たる平成19年春の統一地方選挙は、東京都知事選挙が4月8日、青梅市議会議員選挙が4月22日に決定しました。

統一地方選挙は四年に一度、特に法律を制定し期日を統一して執行されるもので、このことにより有権者の選挙に対する意識を高めると共に、選挙の円滑な執行と執行経費の節減が期待されているところです。第16回統一地方選挙は平成の大合併や長の死亡、辞職、議会の解散等により参加する地方選挙の割合は29・49%と下がっています。

統一地方選挙を控えて

青梅市明るい選挙推進協議会

会長 美澤敏平

選挙は私たちが、身近な地方政治に直接参加できる絶好の機会です。地方選挙、特に市議会議員選挙は一票を争う熾烈な選挙でもあります。その選挙に若い人の低投票率が危惧されております。将来を背負っていく二十代の若者が3人に1人だけしか投票所に足を運ばないのが現状です。

選挙管理委員会は、投票しやすい環境を整え、選挙が公明且つ適正に行われるよう管理執行に努めますが、明るい

花は咲けども、実の一つだに無きぞ悲しき、呼べど叫べど届かぬ声、一抹の寂しさ禁じ得ませんが、統一地方選挙に向けて何んとか成功裏に導きたいと私達推進委員挙つて明日への明るい日本を夢見ながら日々、時と場所を問わず明るい選挙はもとより投票率の向上を目指し、常に無償の愛を探し求めて啓発活動に情熱を傾けているところです。

未来をつくる
あなたの一票大切に



選挙推進委員の皆様方には啓発活動等に特段のご協力を賜わりたいと考えております。

「この名前は青梅市が誇る中村政子さんの作。早速小石川シビックホールにて優秀賞の栄に浴しました事を御披露申し上げますと共にこの心意気で市民等しく選挙に臨んでいただければ幸いかと願つてやみません。ところが先日の講演会で選挙が度重なり、投票率は必然的に低下する傾向にあると水をさされ、先手を挫かれた感に襲われましたが、これにめげることなく、統一地方選挙に大輪の美しい花が咲き誇るよう、より一層の啓発活動にまい進してまいります。選挙は、世代を担う道しるべ

★ 統一地方選挙 ★

4月 8日 (日) 東京都知事選挙 4月22日 (日) 青梅市議会議員選挙

投票日に行けない人も大丈夫。



投票は、原則として投票日に投票所へ行って行うことになっていますが、例外として、

期日前投票とは

投票当日に仕事があったら、出かける用事があったら、あなたならどうしますか。そんなときは期日前投票をしましょう。

「期日前投票」 知っていますか

今年、統一地方選挙の年です。都知事選挙は、4月8日、市議会議員選挙は4月22日に予定されています。わたしたちが政治に直接参加できる絶好の機会です。
わたしたちの東京、わたしたちの青梅が、よりいっそう住みよいまちとなるよう、皆さんの投票をお願いします。

次のような理由で投票所へ行くことができないと見込まれる方は「期日前（不在者）投票」をすることができます。

期日前（不在者） 投票ができる方

- ① 投票日に仕事がある方
- ② 投票日にレジャーや買い物などで自分の投票区の区域外へ出かける方
- ③ 病気やケガ、出産などのため、投票日に投票所へ行けない方

これらの理由で期日前（不在者）投票をする方は、選挙管理委員会に備えてある「宣誓書」に必要事項を記入していただきます。

なお、③に該当する方で指定された病院などに入院している場合は、病院長などに申し出て、病院内で投票することもできます。

都知事選挙 期日前（不在者）投票 期間・場所

期日 3月23日（金）から
4月7日（土）まで

時間 午前8時30分から
午後8時まで

場所 教育センター1階
ホール（市役所向かい側）

東京都知事選挙キャッチコピー

『東京の未来は 私が決める。』



中村政子さんを囲んで（しろばら編集委員会で）

平成19年東京都知事選挙に向けて、キャッチコピー募集がありました。

1千272点の応募の中から青梅市明るい選挙推進委員の中村政子さんの作品が、優秀賞を受賞し、都知事選挙キャッチコピーとして、選挙啓発用のポスターや看板などに使用されます。

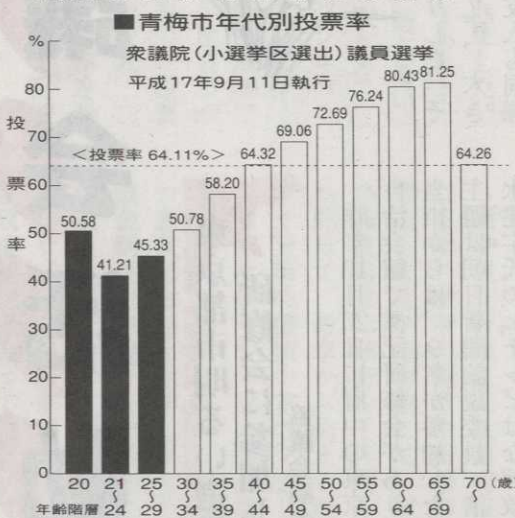
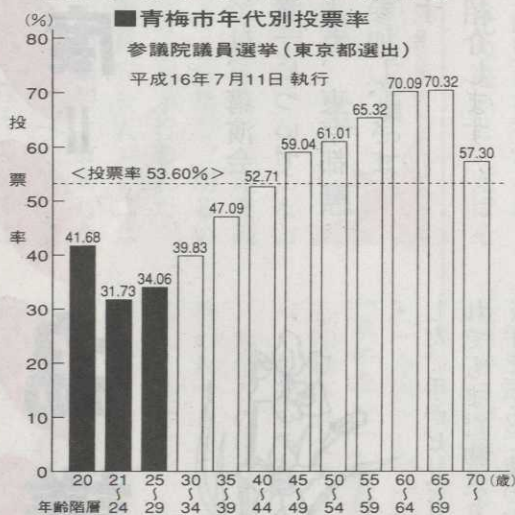
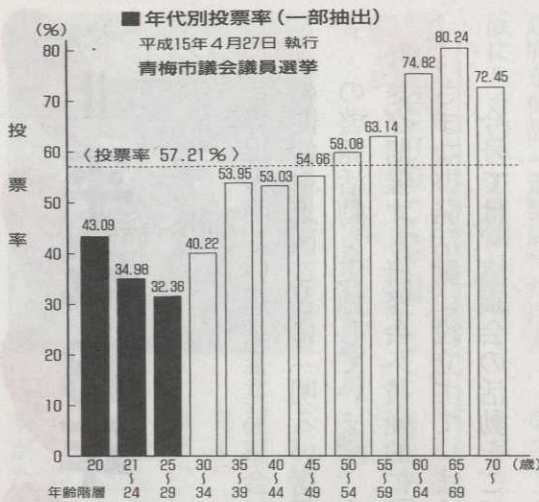
青梅市民としても推進委員としても初めての受賞です。私たち推進委員もたいへん嬉しく、これを機に一丸となって都知事選挙をはじめ、各選挙に一人でも多くの皆さんが投票されるよ

う、啓発活動に頑張ってもらいたいと決意を新たにしたいところです。（しろばら編集委員一同）

中村政子さんが 「東京の未来は 私が決める。」 に込めた想い

若い人たちへの呼びかけとして、一瞬、心にひらめいた言葉を書きとめてみました。

若い方々の投票率がアップしてくれるとたいへん嬉しいです。



大人の自覚、大人の責任。

～みんなで投票しましょう～

若者の投票に

期待!

青梅市では、今年1年間に四つの選挙が予定されています。春の統一地方選挙(都知事選挙と市議会議員選挙)から始まり、夏の参議院議員選挙、そして秋の市長選挙。どれも大切な選挙です。

左表の年代別投票率のグラフを見ると選挙によって投票率は違いますが、どの選挙でも若者の投票率は他の年代と

比べてだいぶ低いことがわかります。これは青梅市に限ったことではなく、全国的な傾向です。また、ほかの年代も選挙ごとの投票率は、徐々に下がっています。この原因は、政治や政治家への不信任感、選挙に対する意識の相違などいろいろと考えられますが、いずれにしてもこれからの社会を担っていくのは、特に若い世代のみなさんです。

選挙後の調査によると「あまり関心がなかったから」「用があったから」というのが若い有権者の棄権理由の多いもので、これはどの選挙でも同じです。若い世代のみなさん、政治や選挙に興味を持ってください。そして当日都合がつかなかったら期日前投票という方法もあります。

小さいけれど大きい、一票の力。

★ 今後の選挙予定 ★

7月 参議院議員選挙

11月 青梅市長選挙

☆選挙についてのお問い合わせは、青梅市選挙管理委員会へ
☎ 22-1111 内線 210

平成18年度

協議会活動報告

青梅市明るい選挙推進協議会では、講演会の開催や地区ごとに「明るい選挙」についての啓発活動を実施しています。また、東京都等が開催する研修会へ積極的に参加し、さまざまな啓発活動に役立てています。

今号では、協議会の活動をご紹介します。

うれしい一日

河辺地区推進委員

福田和代

秋晴れの朝、いつもより少し念入りにお化粧をした。

今日は、推進委員仲間の中村政子さんの表彰の日。電車を乗りつぎ、黄色がみごとな銀杏の木々を見ながら文京シビックセンターに到着する。

25階の窓から色とりどりに染まった後樂園の紅葉を眺め、秋の深まりを感じる。表彰式のことを考えて気もそぞろになりながら昼食を早々に済ませ、会場に足を踏み入れる。

そこには、東京都全域から、日ごろ選挙の啓発活動に携わっている人たちが多数参集

していた。「選挙管理委員会60周年記念式典・平成18年度東京都明るい選挙推進大会」

の文字が掲げられている。式辞や挨拶が滞りなく進行し、永年功労者表彰が終わる。いよいよ、わが青梅市の中村さんの表彰だ。胸がドキドキし

ました。しかし、ステージ上の中村さんの様子は堂々たるもの。いつものように落ち着いていた表情だ。「東京の未来は私が決める。」それは、ま

ぎれもない彼女自身を表現した言葉なのだろう。私の思いを伝えたくて、思い切り拍手を



した。手がピリピリした。それでもまだ物足りず、大きく手を振る。隣の友人も同様だった。「おめでとう」と、声を張り上げて声援を送っていた。気持ちでいっぱいだった。

記念講演は「多様化する有権者意識と選挙」。時代環境が大きく変わり、多様な価値観が共存するいま、私たち一人ひとりの一票が、より意味のあるものになってほしいと強く感じた。

最後に、東京消防庁音楽隊の記念演奏を聴く。「里の秋」「赤とんぼ」など懐かしい童謡が奏でられ、美しい日本の情景に思いを馳せながら家路についた。

玄関に入ると、いい香りがする。夫が挽きたての粉で熱い珈琲をいれてくれていた。「うーん、今日はよかった。」

東京都市明るい選挙推進協議会連合会

研修会に参加して

協議会副会長

宿谷信之

昨年10月20日に府中の東京自治会館で標記研修会があり、当市からは、9名が参加した。主題は朝日新聞論説委員、清水建宇氏の「テレビはなぜ政治を動かすか」と題する講演であった。

メディアと政治が密接な関係にあることは論を俟たないが、国民の政治意識を形づくる上で従来は新聞雑誌を中心とする活字メディアが優位にあり、テレビに代表される視聴覚メディアは劣位にあった。しかし、政治が密室のやりとりから大衆の目にふれる劇場

型になるに伴い、テレビの優位性がしだいに高まり政治家もまたそれに着目するようになってきた。テレビの優位性とは、端的に情報入手の同時性であり、受け手が集中力を欠いても容易に情報を入手できる安易性であり、特に生の映像を居ながらにして目の当たりにできる訴求力の強さである。この利点を最大限に利用したのが「ワンフレーズ」に徹した小泉首相であった、というのが論者の主張のようであった。うなづける見解であらう。

ただ論者もそれが望ましいと言っているわけではなく、「政治におけるメディアのあり方としては、新しい内閣が活字中心のようになっていように見えるのはむしろ喜ばしい」と言っておられたのが、それはやはり氏が新聞出身の方であったゆえだろうか。



管外研修に参加して

新町地区推進委員 坂口芳文

昨年10月11日に管外研修の一環として『造幣局』の見学が行われたので、そのことについて感想を含めて書いてみたいと思う。

浅学のため、私は「造幣局」と言えば桜で有名な大阪の「造幣局」の事しか知らなかった。今回見学した豊島区東池袋の造幣局は、かつて「スガモブリズン」があつた池袋「サンシャインビル」を見上げる所にあつた。

明治四年に造幣局の開業を行っているが官庁のほとんど全てを、東京に建設した明治政府が何故「造幣局」だけ大阪にしたのか不思議に思つて

いた。公式記録ではその選定経緯が残されていないそうだが、一般には当時大阪が商都であつたからだとも云われている。東京にも造幣局が欲しいということ、この東池袋の分室が造られたのかもしれない。

さて、実際内部を見学してみると各国のコインが展示されていた。そのコインについての感想は、やはり円形のものが大多数であること、ヨーロッパでは、コインの中央に穴があいているものは「品がない」ということでそのようなコインは見当らなかつた。それも文化の違いといえそ

うなのだが、明治の初めに発行したコインは二十円、十円、五円、二円、一円と補助貨幣の五十銭、二十銭、十銭、五銭、一銭が主たるものであつた。

今では偶数（二十円等）のコインがないのは、日本人という民族は通貨に関する限り、

「管外研修会」を計画して

新町地区推進委員 堀口實

平成18年10月11日管外研修会が実施されました。毎年協議会委員の啓発活動の一環として実施されていますが、今年度も委員会、主旨から逸脱しないテーマ選びで悩みましたが、四テーマで実行する事になり、当日はバス一台57名の方々が参加されました。

「と」を声にして、「贈らない」「求めない」「受け取らない」と印刷されたティッシュペーパーなどを手渡しました。毎年この様な活動が地域で行われてきました。地道ながら長く続けていく事で、投票所へ足を向ける人が一人、二人と増え、いつか投票率を動かす力になればと願っています。

あまり偶数は好きでないようである。そういえば、故小渕首相の時代に二千円札が発行されたが、何故かほとんど流通せず銀行で、眠っているようである。やはりこの国の国民はいつまでたつても偶数の通貨は受け入れないのだろうか？

「管外研修会」を計画して

新町地区推進委員 堀口實

まず車中で指導員の田中正哉先生からご講話をいただき、青梅市も然り、地域は交通等生活の利便性で、人口の増減を基に様変わりしますが、先人の築き上げた地域毎の歴史や文化を継承させて行く活動の重要さを痛感いたしました。

次に独立行政法人造幣局東京支店の勲章の徽章や貨幣の製造工程及び博物館にて、超熟練技術者の細密な手作業を垣間見て、徽章から伺える勲章や貨幣の価値の重さを感じ入った次第です。次に国会議事堂を見下ろす小高い丘に建つ憲政記念館を見学しました。議会制民主主義を身を挺して推進させてきた方々が、身分や年齢、性別等の差別のない参政権確保と戦って来られて



今があります。ですが、当時から今日まで、年代の変遷も浅い現在、投票率の低下で悩んでいる様子を見ていかなる思いがされているのか感慨深いものがあります。

続いて、サントリー武蔵野工場を見学しました。同社は森林の育成や、副産物・廃棄物等の排出量の抑制に取り組み、私企業においても行政指導に真摯に取り組まれている様子を実感する事が出来ました。

今年度は以上の研修会を実施しましたが、いづれにおいても、公正公明な選挙を通して優れた政治家を選び、調和の取れた政治が執行される事が基本であり、我々の役割の重要性を痛感した次第です。

啓発活動に参加して

青梅地区推進委員 新宮玉恵



投票率アップを願って

昨年11月4日、5日に永山グラウンドで開かれた「産業観光まつり」の会場で、明るい選挙の啓発活動が行われた。

推進委員の一人として、「せっかくの権利を放棄しないでほしいこと」「来年は選挙がたくさん控えているこ

「人は何故投票し、何故棄権するのか？」

講演会に出席して

河辺地区推進委員 宇津木 睦子

今年は4月から、都知事、市議会議員、参議院議員、市長とたくさんの方々が予定されています。

投票率を少しでも上げるにはどうしたら良いか？ 特に関心を持ってもらう方法は何かを念頭に、慶應義塾大学教授、河野武司先生のお話を聞かせていただきました。

選挙の争点は簡単、明確に、情報を通じ正しい知識が取り入れられ、自己の利益が最大に感じられた時、「投票に行こう」と思ってもらえるのではと分析されていたと思います。利益には投票した満足感、民主主義を守り発展させる一

票の重みが含まれてます。平成17年の郵政民営化の選挙が如実に物語り、投票率が上がっていました。

明治23年に初めて衆議院で選挙が執行されて以来、昭和20年によく婦人参政権が与えられ、年令が20歳に引き下げられる等、幾多の困難を乗り越え、現在のように種々の権利を得ています。命を掛けた先駆者達のお陰と申します。自由で平和な生活を永遠に守るため、尊い一票を紙屑にせず投じましょう！

そして棄権の中には批判票だけでなく、行かなくても大丈夫と肯定している様な票もあり、属していない無関心の方達を呼び起す事が重大とお聞きしました。自分の未来のため、家族のため、更には「美しい日本」を発展させるためにも関心を持つてくださ

義務を果たしてから権利を要求、義務は投票、権利は立候補者を選ぶ自由です。適任者が決められない時は「白票」との話もありました。罰金まで課す国もあると聞きました。

自由な日本である故の投票率の低さと思えますが、今のままでは心配です。家庭で話し合うのはもとより、政治的教養教育の必要性が大切だと思います。

ですが、日本のこれからを考えると参議院議員選挙の投票率をアップさせて、良心と公平な心のある参議院議員を是非選びたいですね。

平成18年9月13日に行われた東京都明ら選挙推進委員研修会に出席しました。

統一地方選挙と参議院議員選挙が同年に行われるので「亥年現象」として、投票率の低下は以前からの悩みだそう

もうすぐ統一地方選挙が始まります。高齢化社会、少子化問題、いじめ、ニート等々の真剣に考える事案がいろいろです。身近に我々の生活の実状を知り、声の届く議員さん

研修会に出席して

梅郷地区推進委員 亀田 和子

梅郷地区推進委員から活動報告があり、常時啓発活動、他自治体推進協議会との交流会、広報紙「白ばら」の発行等地道な活動の他に、練馬区では、選挙投票日の前々日に、推進委員と共に中学校の生徒と先生が街頭啓発に参加した

お話、町田市協議会では、成人式にポラロイドカメラで写真を撮り、手作りの台紙に貼って、プレゼントするといったアイデアあふれる活動をしているそうです。若い人の投票離れが懸念されている現在、中学生ぐらいから選挙に関心を持つ環境を作るのも大切な事だと感じました。

次に日本大学教授、岩渕美克先生のお話ですと、亥年は、

18年度活動報告

- 4月◎東京都明ら選挙推進協議会連合会定期総会 ◎推進協議会・推進委員会合同会議
- 6月◎しろばら編集委員会 ◎調査研修委員会 ◎東京都リーダーズフォーラム
- 7月◎東京都明ら選挙推進協議会連合会会長会議 ◎調査研修委員会 ◎推進協議会
- 9月◎東京都明ら選挙推進委員研修会 ◎明ら選挙啓発ポスター
- 10月◎管外研修会・憲政記念館等見学 ◎各地区啓発活動・地区の運動会・文化祭等で啓
- ◎東京都明ら選挙推進協議会連合会委員研修会 ◎推進協議会 ◎東京都リーダーズフォーラム
- 11月◎産業観光まつりでの啓発 ◎しろばら編集委員会 ◎都明ら選挙推進大会
- 12月◎明ら選挙啓発ポスター展 ◎明ら選挙推進講演会
- 1月◎しろばら編集委員会 ◎推進協議会



次、日本大学教授、岩渕美克先生のお話ですと、亥年は、



寄附禁止

～贈らない！

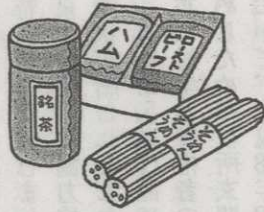
求めない！

受け取らない！～

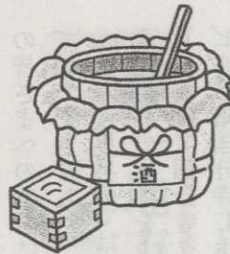


政治家の寄附は禁止！

有権者が求めることも禁止！



お中元・お歳暮



お祭りへの寄附・差入れ



秘書や家族などが代理で出席する場合の結婚祝や香典



落成式・開店祝の花輪や御祝など

明るい選挙で、明るい暮らし。



町内会の催物や旅行会などへの寸志・飲食物の差入れ



葬式の花輪・供花



病気見舞い



入学祝・卒業祝

政治家が選挙区内の人に、お金や物を贈ることは法律で禁止されています。
また、有権者が政治家に対し寄附を求めることも禁止されています。

寄附禁止のルールを守って、明るい選挙を実現しましょう。

【政治家とは】ここでいう政治家とは、現に公職にある人に加え、候補者や候補者になろうとしている人も含まれます。

平成18年度 明るい選挙 啓発ポスターコンクール

市内小・中学校児童、中学校・高等学校の生徒を対象に、明るい選挙を推し進めるうえで、役立つ独創的で、印象深いイメージのポスターを5月から9月までの期間で募集したところ、市内小学校2校から8点、中学校7校から142点の応募がありました。

コンクールの審査は、青梅

市が審査する第一次審査、東京都が審査する第二次審査、そして最終の中央審査(全国)の第三次審査まで行われます。市では、厳正な審査を行い、青梅市入選15点を決定し、東京都へ9点推薦しました。都内全域から推薦された1万5千485点の中から、東京都が第二次審査を行い、優秀賞19点



東京都優秀賞・選挙管理委員会60周年特別賞
大野 卓 (泉中学校・2年)

青梅市入選 (15点・敬称略)
青木一浩(成木小)、土屋亜由美(吹上小)、大野 卓(泉中)、岡村愛里(泉中)、小野駿太(泉中)、片柳志保(霞台中)、勝駿乃介(二二中)、金子理砂(二二中)、神永 萌(泉中)、久保由梨子(泉中)、塚田咲輝(二二中)、福地亜梨奈(泉中)、松藤なお(泉中)、柳彩花(泉中)、渡辺 慧(泉中)

「命」と名々されました。いじめ・自殺・虐待と命の尊さを改めて、考えさせられました。今年こそは、選挙を通じて明るい一年であってほしいと思っております。

おうめしるばら2号の発行にあたって、多くの関係者から投稿にご協力をいただき、しるばら委員一同心から感謝いたします。

この発行により投票率のアップ、明るい選挙の推進の一助になればと思っております。

また、東京都では、優秀賞・入選作品の展示を1月から2月にかけて国分寺ターミナルビル8階国分寺ホールおよび東京都庁第一本庁舎45階南側展望室で行いました。

また、東京都では、優秀賞・入選作品の展示を1月から2月にかけて国分寺ターミナルビル8階国分寺ホールおよび東京都庁第一本庁舎45階南側展望室で行いました。

「命」と名々されました。いじめ・自殺・虐待と命の尊さを改めて、考えさせられました。今年こそは、選挙を通じて明るい一年であってほしいと思っております。

この発行により投票率のアップ、明るい選挙の推進の一助になればと思っております。

(中央審査推薦)、入選100点、特別賞10点および協力校47校が決定しました。青梅市からは、大野 卓さん(泉中学校・2年)が優秀賞を受賞し、あわせて選挙管理委員会60周年特別賞も受賞しました。また、泉中学校には協力校として感謝状が贈られました。

また、東京都では、優秀賞・入選作品の展示を1月から2月にかけて国分寺ターミナルビル8階国分寺ホールおよび東京都庁第一本庁舎45階南側展望室で行いました。

また、東京都では、優秀賞・入選作品の展示を1月から2月にかけて国分寺ターミナルビル8階国分寺ホールおよび東京都庁第一本庁舎45階南側展望室で行いました。

この発行により投票率のアップ、明るい選挙の推進の一助になればと思っております。

永年功労者表彰&都知事選挙統一標語優秀賞

平成18年11月29日、文京シビックホールにおいて、選挙管理委員会60周年記念式典・平成18年度東京都明るい選挙推進大会が開催され、選挙管理委員会および推進委員19名が参加しました。

明るい選挙推進運動永年功労者の表彰では、青梅市から、加藤幸男さん、金子一郎さん、福田和代さん、森田清孝さんが10年間にわたる推進活動に対し、表彰を受けました。

続いて、平成19年東京都知

選挙キヤッチコピーに決定した「東京の未来は私が決める。」を応募した藤橋・今井地区推進委員の中村政子さんが優秀作品賞を受賞し、大会は、慶應義塾大学教授の小林良彰氏の記念講演、東京消防庁音楽隊の記念演奏で幕を閉じました。

編集後記

昨年(木村)

青梅地区	並木 明
長淵地区	中村 佐内
大門地区	伊藤 清美
梅郷地区	福泉 知重子
沢井地区	田中 純子
小曾木地区	塩野 スミ子
成木地区	野村 昇
東青梅地区	木村 幸雄
新町地区	内山 洋子
河辺地区	福田 和代
藤橋・今井地区	中村 政子